

びしま釣り入門

荒井昭

美しい姿、直接手に伝わる力強い引き、海の女王真鯛が本当に良く釣れるびしま道具。

22年前ある釣雑誌でびしま道具による真鯛釣りを知り、独特の趣、奥深い魅力に魅せられて、びしま系の自作、改良そして、かぶら叩きに没頭する日々が続きました。今でも休日のたびに心の中でカアチャンゴメンと云いながらの釣行をくりかえしびしま系の感触を楽しんでいます。このたびびしま釣りに魅せられている釣友達の集まりである「びしま紅鱗会」に入会させていただき、あらたな気持でびしま釣りの研究、普及に取り組みたいと思っております。

皆様より少しだけ長い釣歴を持った私にびしま釣りの基本や釣技を書けとのこと、これから本格的に鯛釣りに取り組みたいと思っている方、鯛釣りが難しく少々嫌気がさしている方の為に少しでもお役にたてばと思いペンを取りました。

タチ取り入門

昔からびしま釣りはタチを釣れと云われています。タチ取りが正確に出来るか出来ないかが奥深い魅力を秘めたびしま釣りを楽しめるかどうかの別れ道なのです。タチ取りに関して次の二項がもっとも大切なことです。

1. タチ取りの良い道具を使うこと。

2. タチ取りの基本に忠実に練習をくりかえすこと。道具は自作で手に馴染んだものを使うのが一番です。びしま系の製作方法については研究改良の第一人者である窪田会長が当会報で順次掲載していただけると聞いておりますのでここでは割愛いたします。

タチの取り方

鯛釣り船に乗る時、愛竿はのせないで下さい。びしま釣り以外に気持ちが移ると上達が鈍ります。船が釣り場についたらまず船頭さんに水深を聞いて下さい。次にあらかじめ聞いた水深と同じ長さだけ糸を出して下さい。この時、目印のついたびしま糸を使っていると大変便利です。海は潮が流れていますから水深ぴったりではかぶらは底についていないはず。次に糸を人差し指と親指で持ち手首をあおって下さい。びしま糸の振動が伝わりその次に微妙なかぶらの踊る振動が伝わります。この振動が海底より上にある時のサインなのです。何回も何回も手首をあおりかぶらの踊る微妙な振動を指先に、頭にとたたきこんで下さい。次に3~4m糸を伸ばし手首をあおって下さい。前と同じ感触でしたら又3~4m伸ばして下さい。前とは違いびしま糸の振動だけでその次のかぶらの踊る微妙な振動がなければかぶらが海底に

個人の参考用出力は歓迎しますが
無断転載はお断りします。

現在、かぶら針の材料は 国道28号 太東岬と大原の間にある
「田中つり餌センター」で売っています。Tel0470-87-6620

ついでいます。この微妙な振動の違いで海底 = タチの判別が出来るのです。海底、タチが分かりましたらかぶらを50cm1mと少しづつたぐり上げ又底に伸ばしてかぶらを海底より30~50cmのところに入れて下さい。

最初この微妙さが全然分からないかもしれません。こんな時はまず船頭さんにタチを取ってもらって、タチの所をゴム輪等で印をつけて上記の動作をくりかえしてみるのも一つの方法です。

タチ取りの基本はたったこれだけです。しかし初心者にはこの微妙さがなかなか分かりづらいので最初はできるだけ集中的に船に乗り正確なタテ取りの練習をして下さい。くどいようですがタチ取り練習中は魚を釣ることは二の次にして下さい。タチが取れるようになったら自然に鯛が釣れるようになります。中途半端なタチ取りで釣れた魚は偶然の幸運とお考え下さい。

コロガシ釣り

鯛の標準的な釣り方は毎底から50cm~1mの所にかぶらを保ち、コツン、ググーと鋭いあたりがきたと同時に二・三手すばやく手繰り合わせて針掛りさせると言うものです。タチ取りを完全にマスターする迄はこの標準的釣技で鯛をねらして下さい。タチ取りに自信が持てるようになったら次の積極的に魚を誘うコロガシ釣りを試してみてください。意識的にかぶらを海底に2~7m位這わせ、そして手繰る。かぶらをコロガシ砂煙をたて魚の注意をひく。かぶらが海底から離れる瞬間魚が飛びつき針掛りさせるという釣技なのです。当びしま紅鱗会の会員の多くはこのコロガシ釣りで今迄の二倍三倍と釣果をあげております。海の状態はその日その日によって千差万別です、潮の流れ、風むき、釣場による底の状態、水深、水色等々一定ではありません。このような状態を的確につかみ這わせ方も変化させます。標準的には根掛りの多い時は2~3mと少なめに、根掛りの少ない時は5~6mと長く這わせます。手繰り方もその日の潮ぐあいでスピードを変えたりします。この辺はこれと言った決定的なものはありませんので皆様で研究して下さい。この釣り方に対して根掛りを心配される方もあるかもしれませんが、かぶらを這わした後すぐたぐりあげればそれ程根掛りはいたしません。この釣技のコツは出来るだけタチ取りをしないことです。かぶらが自然に海底に這い、ゆっくりと海底から離れて底から5~6mの所へという動作がスムーズに繰り返されて初めて効果が表われます。この途中にギクシャクとしたタチ取りが行なわれては餌に飛びつこうとした魚も逃げてしまいます。タチ取りをマスターされた方は、次にタチを意識的にとらないこのコロガシ釣りを研究マスターして下さい。びしま釣りが一段と奥行の深い趣のあるものになります。びしま釣りに御意見、御質問があれば当会又は私荒井迄御連絡下さい。又ぜひ一度ビシターとして和気合々の当会の鯛釣りに御参加下さい。連絡先荒井03-686-3149

(連載)びしま道具の改良と作り方

窪田一胤

第1回びしま系一週間製作法

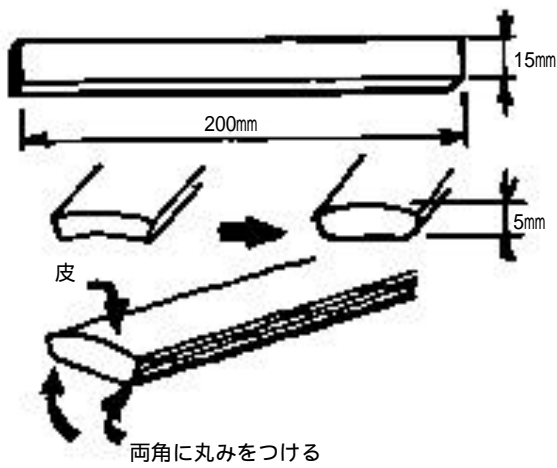
びしま道具について2~3回に亙ってお話したいと思います。びしま道具は道糸におもりを唆みつけ海潮の早い所でのタチ取りを容易にしようという発想から出現した道具です。良いびしま道具とはまず第一にタチが取り易くなければなりません。魚とのやりとりが楽とか、お祭りしにくいとかの条件はタチ取りが悪ければ意味がありません。びしま道具の改良について色々述べたいこともありますが今回は一切省略して、びしま作り初めての方のためにタチが取り易く、なおかつ作り方が楽なものについて述べます。一日3~4時間で7日間あれば誰にでも簡単に作れます。ぜひ御自分の手製のびしま系で鯛釣りをエンジョイして下さい。

材料と道具

1. テトロン系100m以上
今迄の経験からトドマスター12号かよつあみ印胴付12号が最適です。最底100m、出来れば200m用意して下さい。
2. 切鉛(きりなまり)
道糸に咬みつける鉛です。人魚印のものを使って下さい。千葉県大原町玉田釣具店(04706-2-0034)か東京渋谷三水釣具店(03-400-1911)で購入できます。切鉛は普通2号から5号迄を使用します。号数が小さい方が重くなっています。今回は3号のみを使用します。1kgで100mびしま系約4本作れます。
3. 接者剤
合成ゴム系の接着剤、セメダインーハイコンタクト、ソニーボンド等を用意して下さい。20ml入り位が最適の量です。
4. プライヤー
図のような溝つきプライヤーが良いのですが、溝の形状が悪く現在薦められるものはありません。KSKに改良を依頼し近く発売予定ですのでそれまでは溝なしのプライヤーで代用して下さい。ラジオベンチ等が良いでしょう。



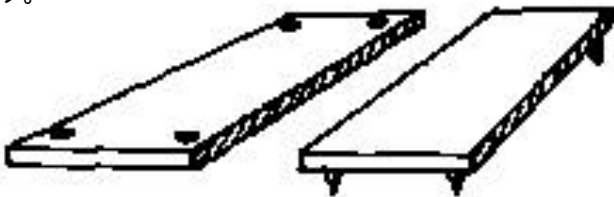
5. 竹べら
竹べらに凹みを掘ってその中で切鉛を転がして切鉛の両端を丸めるのですが、凹みの掘り方が難しいので今回は便法を述べます。孟宗竹を図の大きさに切り、内側の角に丸みをつけます。孟宗竹の購入が難しい方は東京渋谷の東急ハンズで青竹ふみ用として発売しているものを利用すると良いでしょう。



両角に丸みをつける

6. 裏押し(カンナの裏側を磨く鉄の板)

図のように2種類あります。どちらでも良いですが裏面に釘があるものは下に木の小片をあて、釘のないものは古タオル等をあてて使用します。大工道具店で売っています。



7. 物差し

30~50cmのもの、家にあるものでかまいません。新しく購入する場合、不透明で目盛りが見やすいものが良い。出来れば2mmおきに目盛りがついているものの方が見やすく良いでしょう。

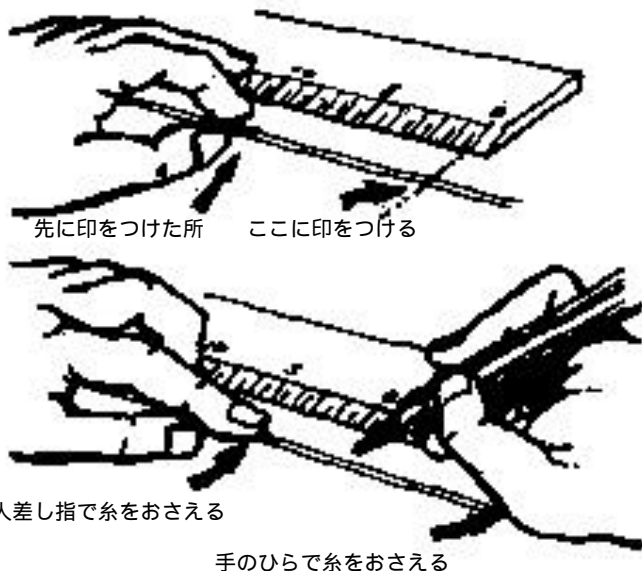
8. マジックペン

油性のもので細書きを用意します。



びしま作り第1日(目盛りづけ)

テトロン糸にマジックインクで表の通り印をつけます。図のように物差しで測りながら印をつけていきます。1mm前後の狂いは気にしないで結構です。表1を例に印のつ



人差し指で糸をおさえる

手のひらで糸をおさえる

け方を説明します。まず糸の端から16~17cmの所に印をつけ次に10cmおきに22ヶ印をつけます。そして10.8cmおきに22ヶというふうに順次印をつけて98m迄印をつけます。初めての方は100m分一気に仕上げるのでは一寸骨がおれるかもしれません。最初図中の一点鎖線の所約50m迄作り、しばらくして残りを作ってもかまいません。大原あたりの鯛釣りでしたら50mびしま糸でも十分実用に耐えます。

表 1

間隔(cm)	個数	長さ(cm)
10.0	22	220
10.8	22	237.6
11.8	23	271.4
13.0	23	299
14.0	23	322
15.4	22	338.8
17.0	40	680
18.2	40	728
20.0	64	1280
21.2	25	530
24.0	40	960
27.0	40	1080
31.0	40	1240
36.0	45	1620
合計	469	98.08m

表 2

間隔(cm)	個数	長さ(cm)
9.5	31	294.5
11.0	31	341
12.8	31	396.8
14.0	23	322+
15.1	24	362.4
16.2	30	486
17.4	30	522
18.6	40	744
20.2	54	1080
21.4	18	385.2
24.0	40	960
27.0	40	1080
31.0	40	1240
36.0	45	1620
合計	487	98.39m

表1は軽重型で重めのもの、表2は重量型の軽めのものです。表1、表2とも10号かぶらで140m位迄のタチ取りが可能です。表2の方がやや深場向きです。

びしま作り第2日~第4日(咬みつけ)

1. 接着剤を紙の上などに少量絞り出します。これを楊子で少し取り切鉛の溝の中央辺に押付けるように置きます。塗り拡げる必要はありません。

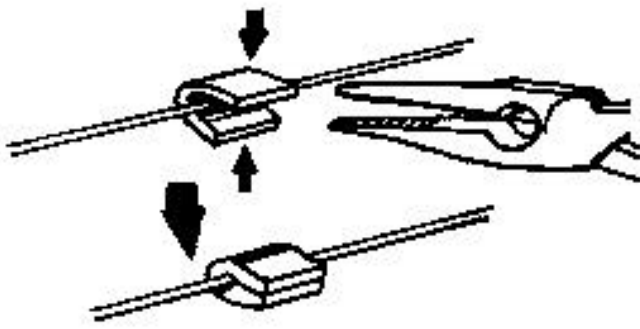
接着剤を付けた順序に並べ1日分70ヶ~120ヶ用意します。



中央部に楊子で廻しながらおしつける

2. 最初のものが乾いていますので先に印をつけたテトロン糸に咬みつけます。咬みつけ方は次の順序で行なって下さい。

a. プライヤーで切鉛を二つ折りにします。



b. 切鉛を回しながら表面を軽く締めつつ円筒状になるように整形します。

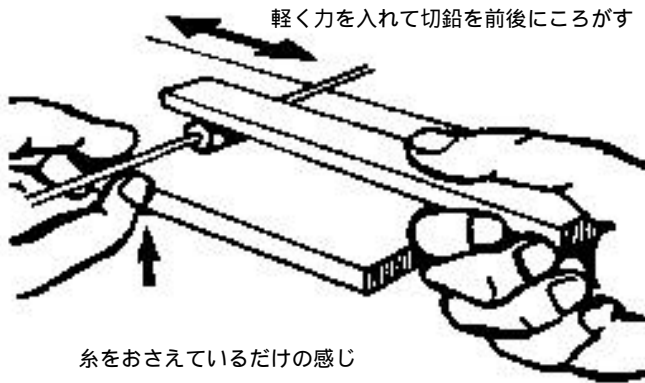


回しながら軽く力を入れて円柱状にする

びしま作り第5日～第7日(整形)

切鉛の両端を丸めて整形します。机上に裏押しを置き、この上で竹べらを使って切鉛をころがします。ころがし方は次の順序で行なって下さい。

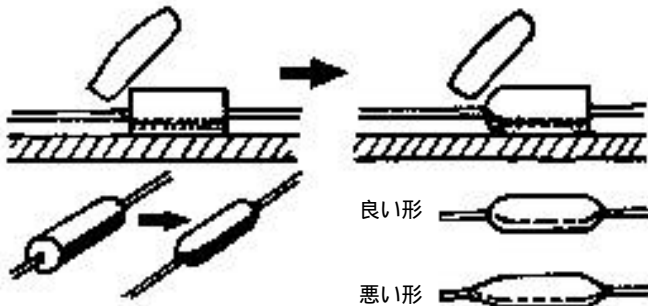
a. 左手で糸を軽く持ち竹べらを前後に動かしながらブライヤーで作った円柱をよりなめらかな円柱にします。



軽く力を入れて切鉛を前後にころがす

糸をおさえているだけの感じ

b. 次に円柱の角をとるよう竹べらを45°傾けてころがします。片方の角が整形できましたら、ひっくりかえして同じように反対側の角もとります。



良い形

悪い形

以上で出来あがりです。この製作法はテトロン糸専用であってナイロン糸にはむきません。ナイロンびしま糸の製作法は別に掲載いたします。又この製作法は酒井氏、小川氏の考案を取り入れて完成したことを申し恭えておきます。

テトロンびしま糸の特徴

御承知の通りテトロン糸はほとんど「のび」がありません。この性質はびしま糸のタチ取りにはぴったりなのですが、鯛釣りの時釣人の動きがあまりにも敏感に糸の先に出てしまうという欠点を持ち合わせています。釣人の不自然な糸の操作が直接かぶらの動きとなり魚の警戒心を煽りますので釣り方に工夫が必要です。荒井氏考案のコロガシ釣りなどが最適だと思います。

b. 切鉛を回しながら切鉛の表面を軽く締めつつ円柱状になるように整形します。

かぶらおもりとハリスの長さ

びしま糸の先にハリスをつけますが、ハリスの長さはかぶら1号あたり1mと心得ておいて下さい。5号かぶらなら5m、10号かぶらなら10mハリスをつけて下さい。これ以上長いハリスはフケが出てタチの感度がおちます。

事務局より

昨年11月30日当会発足いらい鯛釣り会も順調に開催され、多くの会員に楽しんでいただきました。本年はめずらしく年が明けてからも鯛のあたりが活発で2月の初め迄鯛釣りを楽しむことが出来ました。さすがに3月の声を聞くと水温もさがり鯛釣りも一服となりました。会員の皆様には一寸冬眠に入っていたいただき4月の桜鯛の季節に向けてびしま、かぶら作りに精を出していただきたいと思っております。

あらたに林さん田村さん加藤さんの3氏が入会いたしました。御紹介は釣合の折にでもさせていただきます。会報No.1、No.2と一寸難しい内容が続きましたので次号からは楽しく読めるものも取りあげたいと思っております。原稿についての皆様の御協力をお願いいたします。

びしま紅蜂会・会報No.2 1981.3.31発行

釣行計画についてのお問い合わせは
酒井迄(TEL.0474-39-1548)
会報についてのお問い合わせは
小川迄(TEL.03-421-3929)